

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

肢体不自由等の障がいのある児童生徒たちの将来を見据え、一人ひとりのニーズを的確に把握し、小・中・高一貫した教育活動において学力の基礎・基本を身に着けるとともに、キャリア教育を推進し、自立と社会参加へ向けて積極的に学ぶ人間の育成をめざす。
1 系統性・発展性のある教育活動を推進する学校
2 地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校
3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速な対応ができる学校
4 児童生徒の卒業後の自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校

2 中期的目標

1 系統性・発展性のある教育活動を推進する学校 （1）学習指導要領に基づいた段階別の系統性を持った教育課程の編成を行い、個別の指導計画に基づいた教科学習を位置づける。 （2）シラバスとキャリアプランニングマトリックスの関連性を確立させ、発展性のある教育活動の向上をめざす。
2 地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校 （1）大阪整肢学院との連携を継続し、適切な実態把握と一人ひとりのニーズに基づいた「身体への教育的アプローチ」を含む自立活動指導の向上を図る。 （2）教育実践×ICT 機器の活用にむけた教材・支援機器の活用実践を進め、その授業実践を蓄積する。（ICT 機器活用実践の蓄積⇒令和 4 年度より各年度 20 事例×3 年【R4 22 事例】【R5 35 事例】【R6 84 事例】）
3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速な対応ができる学校 （1）日常的な危機管理を徹底し、児童生徒が「大切にされている」と実感できる安全で安心な指導・支援を行う。 （2）保健・安全・衛生管理・防災等に関して大阪整肢学院と連携し学びを支える環境整備を行う学校づくりを進める。 （3）業務負担の見直しや適正化を進め教職員の健康管理と意識改革を図る。
4 児童生徒の卒業後の将来を見据えた自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校 （1）早期からのキャリア教育の充実を推進し、児童生徒一人ひとりの自主性・自立性を育成する。 （2）地域への貢献と支援教育に関する専門性を向上し追求する姿勢をもちながら、支援教育の充実を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○児童生徒、保護者、教職員を対象に実施 ・児童生徒及び教職員の回収率は 100%。保護者からの回収率は 52%となり、前年度と比較し、16 ポイント低くなった。今年度はフォーム作成ツールでのアンケート実施であったが、次年度は、学校行事や保護者の来校に合わせてアンケートを配付し、その場で回収する等の工夫をして、回収率を高めていく必要がある。 【学習指導・教育活動、1 人 1 台端末の活用等】 ・「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」の設問における保護者の回答は肯定的意見が 47%と、前年度と比較し 6 ポイント上昇したが、「わからない」との回答が 41%あった。「授業はわかりやすいですか」の設問における児童生徒の肯定的意見が 86%であることを踏まえると、保護者と学校が児童生徒の様子を十分に共有できていないことが一因と推察され、学校行事等の機会を捉えて、より一層、保護者とコミュニケーションを図っていくことが必要と考えられる。 ・ICT 活用について、児童生徒が 86%、教職員が 89%と高値を維持できた一方、保護者においては肯定的意見が 53%（前年度比+12 ポイント）であるものの、依然として「わからない」が 41%（前年度比±0）あった。端末の利用環境が校内のみであるため、普段の生活の中で子どもが端末を使用している場面を見る機会がないことが一因になっていることを推察する。引き続き、日常の教育活動の中で ICT 教材等を使用する場面を増やすとともに、授業参観等で利用の実際を伝えていく。 【学校運営等】 ・校長のリーダーシップに関する項目では肯定的意見が 89%と、前年度と比較し 27 ポイント上昇した。引き続き、教職員の声を丁寧に聴いて、学校運営を進めていく。 ・「学校教育改善のための提案」において、「授業改善公開授業週間に限定せず、授業がない時間に、自由に授業見学を行えるシステムが構築されればよい」との意見があった。これまで行ってきた教育改善の取組みを発展的に解消し、新たな取組みの検討を行うことで、12 年間を見通した系統性・継続性のある教育課程を実現するとともに、教員の専門性の向上及びその継承につなげていきたい。 【その他】 ・「学校は、児童生徒の健康、安全について、適切に対処している」の設問における保護者の回答は肯定的意見が 77%と、前年度と比較し 29 ポイント上昇した。保護者とともに避難訓練を実施したことや、学校で体調不良となった場合の連絡を、時機を逸することなく、丁寧に行ってきたこと等が理由と考える。引き続き、防災の取組みを進めていくとともに、学校保健の充実を図っていく。	第 1 回（7 /12） ○学校経営計画について ・会議の時間設定について、大事なことだと感じた。始まりの時間だけでなく、終わりの時間を決めることで、会議がスムーズに進行できると思う。 ・障がい理解推進と外部人材活用について、今年度もドラムの演奏をとおして、関わらせてもらえることを楽しみにしている。大阪音楽大学の学生も楽しみにしており、中津支援学校の児童生徒が楽しんでくれているだけでなく、学生にとっても大変刺激的であり、勉強になっている。音楽の力による子どもたちの表情や様子の変化に直接関わることで、支援教育への興味・関心が高まると思う。学校経営計画に人材育成の観点を入っていることをありがたく思う。 ○学習指導について ・学校でたくさんの経験・体験をすることにより、子どもは成長していくので、引き続き、将来の参加を見越して、指導いただきたい。 ・ICT に関して、先生方が勉強されており、熱を感じる。ただし、すべて ICT を活用すればいいわけではない。実際の体験も同じく大事であり、体験させることのバランスを考え、授業を展開していくことも重要である。 第 2 回（12/20） ○学校経営計画の進捗について ・災害時の避難訓練を学校と関係機関とで実施することができた。大阪整肢学院における夜間の避難に関して、できれば地域の方々に応援をお願いできればと考えている。学校が実施する合同訓練等に地域の方々も参加いただけるとありがたい。 ・キャリア教育について、小中校の連携は、支援学校でも意外と難しくなるのでは思うが、中津支援学校では各学部が連携して、将来を見据え、学校全体で取り組んでいることが伝わってきた。 第 3 回（1 /31） ○学校教育自己診断アンケートの結果と分析について ・項目「感染症の拡大防止策」について、感染症が流行しているなか、児童生徒は安全に過ごすことができている。学校の先生方にも注意をしていただいていると感じた。 ○ドラムフェスタの開催について ・当日の演者から、パワーをもらった等の感想が届いており、出演者にとっても貴重な機会となった。 ・フラッシュモブのように、先生方が急に入ってくるようなものがあれば、子どもたちは、もっと喜ぶかもしれないと感じた。 ・報告を聞いて、地域からも出来ることがあるのではないかと感じた。地域ではアマチュアの落語会や品物の販売会などを実施しており、子どもたちが参加できるものがあれば、お声かけいただきたい。 ○令和 7 年度 学校経営計画（案）について ・「めざす学校像」及び「中期的目標」について承認を得た。 ・教職員が主体的に取り組んでいる様子が伺えた。意思決定における単なるトップダウンでなく、子どもたちのために先生方が意欲をもって取り組んでいこうと思えるような環境が醸成されていると感じた。

府立中津支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 系統性・発展性のある教育活動を推進する学校	(1) 学習指導要領に基づいた段階別の系統性を持った教育課程の編成	ア・イ 共通 教育課程検討委員会において校内の学習内容を確認しその系統性、発展性のある学習内容になるよう精査を進める。	ア R7年度 教科化の確実な実施に向け、教育課程等の整備 ① コミュニケーション（ことば・国語等） ② 認知（かず・算数・数学） ③ せいかつ（しぜん・理科・社会職業・家庭） イ R5年度以降見直しを進めている、Ⅲ類型（自立活動を主とした教育課程）について R7年度当初から確実に実施できるよう、各種様式等の見直しを進める ⇒ ア・イ 共通 学校教育自己診断（教職員）〔児童生徒の実態を踏まえた教育課程〕の項目 85%以上【R5 85%】	ア・評価指標に示す①～③について、教育課程等の整備を終えた。この整備を踏まえ、次年度はそれぞれの教科等の時数を示して、各学部の教育課程を編成する。 (○) イ・「個別の指導計画」に自立活動及び教科の欄を設ける等、各種様式等の見直しを終えた。学校教育自己診断は83%となり、目標値には到達しなかったが、R7年度当初から教科の指導を確実に行うために、今年度作成したシラバス（指導と評価の年間計画）を試行的に運用しており、課題を共有しながら、準備を進めることができる。 (○)
	(2) シラバスとキャリアプランニングマトリクスの関係性を確立する。	ア シラバスとキャリアプランニングマトリクスの関連性を示した内容をもとに年間指導計画に沿った内容を適切に実施する。	ア 教科化に伴い、これまで自立活動として位置付けていた年間計画の内容を教科に基づく内容として見直しを行う。 ⇒ 学校教育自己診断〔年間の学習指導計画についてよく話し合っている〕の項目 87%以上【R5 87%】	ア・学校教育自己診断は 83%となり、目標値には4ポイント及ばなかったものの、教科ごとに年間計画とキャリアプランニングマトリクスを一体化させたシラバスを作成できた。次年度は作成したシラバスを使用して学習指導を進めていく。 (○)
2 地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校	(1) 大阪整肢学院との連携を継続し、適切な実態把握と一人ひとりのニーズに基づいた「身体への教育的アプローチ」を含む自立活動指導の向上。	ア 大阪整肢学院リハビリテーション部と連携した研修会の実施 リハビリテーション部のセラピスト（OT・PT・ST）による勉強会の実施 イ 児童生徒への「身体への教育的アプローチ」教職員の理解の深化に努める	ア アンケートによる肯定的回答 80%以上 ⇒ 【R5 80%】 イ 臨床動作法の実践を学び、「身体への教育的アプローチ」のスキルの充実を図る。 外部講師の招聘 ⇒ アンケートによる肯定的回答 70%以上	ア・大阪整肢学院の言語聴覚士を講師とした研修を5／29に実施した。実施後のアンケートでは肯定的意見が100%となり、自立活動指導の向上に資するものとなった。次年度も継続して取り組んでいく。 (○) イ・臨床動作法について、実施後のアンケートで肯定的意見が100%となり、自立活動指導の向上に資するものとなった。次年度も継続して取り組んでいく。 (○)
	(2) 教育実践×ICT機器の活用にもつけた教材・支援機器の活用実践を進め、その授業実践を蓄積する。	ア 教職員の「一人1研究」において成果物を作成することで実践事例を校外へ発信 イ ICT・支援機器の活用や校内での支援教育の実践を校外へ発信する	ア 作成された成果物を校内HPにおいて、校外へ発信するとともに、実践報告集として編集し校外へ発信する。 ⇒ 30事例以上 イ 支援機器展示・支援教育実践研修会の継続実施 ⇒ 他校からの参加者15人以上【R5 7人】	ア・2学期中に実践事例等教材教具集（冊子）を発行した。10月には、新たに学校ホームページに教材ブログを開設し、30件以上の実践事例を校外へ発信できた。引き続き、学校ホームページを活用して、情報発信を行う。 ＊冊子掲載：68件、ブログ掲載：16件 (◎) イ・8／20～22（3日間）に開催した「なかつ支援教育展 2024」にて、支援機器の活用、実物展示を含め、教育実践を公開した。他校から22人の参加があり、授業実践を蓄積する取組みとなった。 (◎)

府立中津支援学校

3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速な対応ができる学校	（１）日常的な危機管理を徹底し、児童生徒が「大切にされている」と実感できる安全で安心な指導・支援を行う。	ア 外部講師を招聘し、児童生徒の人権や安全安心な指導支援について理解を深める	ア 摂食指導における実技研修の実施 ⇒ 年１回 アンケートによる肯定的回答 75%以上	ア・８／26 に、摂食指導をテーマにした外部講師による実技研修を実施した。児童生徒個別の状況を想定した実際的な内容としたため、アンケートに替えて、受講者の感想を集約した。受講者すべてから好評を博し、安全安心な指導支援の理解を深める機会となった。 (○)
	（２）保健・安全・衛生管理・防災等に関して大阪整肢学院と連携し学びを支える環境整備を行う学校づくり。	イ 児童生徒に関する問題事象について意識向上を図る	イ 校内のインシデント事象の事例検討の継続実施 ⇒ 年１回以上【R5 １回】	イ・１月に、各学部において、校内で生じた事象を踏まえた架空事例を用いて事例検討を行った。課題を組織で共有し、集団の意識向上を図った。次年度も継続して取り組んでいく。 (○)
	（３）業務負担の見直しや適正化を進め教職員の健康管理と意識改革。	ア 教職員の防災意識のさらなる向上 イ 「学校防災アドバイザー派遣事業」を活用した校内の防災体制の推進 ウ 大阪整肢学院や地域関係機関との連携	ア 防災士の育成と実践的な避難訓練の実施 ⇒ 防災士の育成１人 学校教育自己診断（新規項目）[教職員は具体的な防災対策を意識している]の項目 70%以上 イ 防災対策の充実 ⇒ 教職員のヘルメットの配備率 80%以上【R5 45%】 ウ 学校防災アドバイザーによる校内および関係機関との研修の実施 ⇒ 研修後のアンケートの実施 肯定的回答 70%以上	ア・新たに、８月に１人の教員が防災士の認定を受け、校内において防災士の有資格者が２人となった。防災に係る自己診断では肯定的意見が 94%となり、教職員の防災意識の向上を図ることができた。引き続き、防災の体制整備に取り組んでいく。 (◎) イ・防災アドバイザーの助言を踏まえ、ヘルメットの配備に努めた。常勤職員の配備率が 100%になり、体制整備を進めることができた。引き続き、防災の体制整備に取り組んでいく。 (○) ウ・７／22 及び 10／29 に、防災アドバイザーの指導のもと、大阪整肢学院や中津保育園の職員、府立学校の教職員が参加して、防災研修を実施した。研修後のアンケートでは肯定的回答が 95%以上となり（下記参照）、関係機関との連携を深めることができた。 (7／22) 100% (10／29・班別協議) 100% (10／29・防災意識の向上) 95.4% ・12／11 には、同じく、地域の関係機関と合同で地震・津波訓練を実施した。 (○) ア・会議時間を記録する様式を作成し、４月から運用を開始した。５～12 月に実施した分掌会議（６分掌、全 38 回）のうち、26 回において、45 分以内に会議を終了し、達成率は 68%であった。引き続き、会議の進め方等について工夫をしながら、メリハリのある校務運営をめざしていく。 (△)

府立中津支援学校

4 児童生徒の卒業後の将来を見据えた自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校	（１）早期からのキャリア教育の充実を推進し、児童生徒一人ひとりの自主性・自立性を育成する。	ア 新設した、キャリア教育推進部の体制整備	ア 訪問型ジョブメイト（ジョブコーチ）の育成を行い、児童生徒の客観的な職業観を育成する。 ⇒ NPO 大阪障がい者雇用支援ネットワーク（ES ネット）主催の職場適応援助者養成研修 １人育成	ア・７月に、認定 NPO 法人大阪障がい者ネットワーク（ES ネット）主催の職場適応援助者養成研修を、キャリア教育推進部に所属する教員１人が受講した。ジョブコーチの認定を受け、進路指導や相談体制の整備を進めることができた。 （○）
		イ 早期からのキャリア教育の充実	イ 各学部段階において、物品販売できる製品づくり（中津ブランド）に取組み販売体験活動を実施 ⇒ 年２回	イ・高等部において、２回の校内実習にて、製品づくり、販売体験に取り組んだ。 ・小・中学部において、製品づくり、販売体験に取り組み、早期からのキャリア教育の充実に資することができた。次年度も継続して取り組んでいく。 （○）
		ウ 高等部段階における自主性・自立性の育成	ウ １人複数回の事業所との現場実習等を企画し、進路選択について自己選択・自己決定でき実習を企画する。 ⇒ ２人以上	ウ・高等部の各学習グループにおいて、複数回の現場実習等を実施し、生徒の自主性・自立性を育成する機会を確保した。次年度も継続して取り組んでいく。 （○）
	（２）地域への貢献と支援教育に関する専門性を向上し追求する姿勢をもちながら、支援教育の充実を推進する。	ア 地域における支援教育力の向上をめざし専門性の向上を図る	ア 他府県における専門性向上に資する研修会への派遣および研修会への参加 ⇒ L S（リーディングスタッフ） １人を派遣	ア・他府県等が開催する研修に LS ３人を派遣し、専門性の向上を図った。 ① 1／24 京都市立北総合支援学校 研究発表会（２人） ② 3／8 国立特別支援教育総合研究所 セミナー （１人） 引き続き、豊能ブロックの支援教育力向上をめざし、取り組んでいく。 （○）
		イ 障がい理解推進と外部人材の活用	イ 大阪音楽大学生との交流活動の継続 ⇒ ドラムフェスタの継続実施と事前学習として音楽の授業において交流を進める。学生の授業参加 年２回	イ・１／21 に、ドラムフェスタを実施した。12／9 には、中学部・高等部の各 FG グループにおいて、事前学習を実施し、大阪音楽大学生と交流した。 （○）